

かけはし



親子で楽しむ外国絵本の読み聞かせ ～ニュージーランドを感じよう！～

7月16日、23日の2日間、中央図書館にて、国際交流員ジャックリンさんによるニュージーランドの絵本の読み聞かせが行われました。

ジャックリンさんの、英語と日本語を織り混ぜた読み聞かせや歌に、子どもたちはとても楽しそうでした。好評でしたので、今後も継続して開催します。（日野）



ニュージーランド人国際交流員 交代のお知らせ



はじめまして! フィンクルヴァーン・ロザンナです!

私は兄の影響を受け、日本に興味を持つようになりました。高校に入ったばかりの兄の必死でひらがなを練習している姿がかっこよくて、当時の私の憧れでした。高校に入って選択授業として日本語を勉強し始めて、私も日本の文字や単語を覚えることに熱心になりました。それがとても楽しくて、日本で仕事がしてみたいという夢が生まれました。

2009年に名古屋の菊華高校に留学して、一年後ニュージーランド(NZ)に戻って大学で日本語

と言語学を専攻しました。そして今年、幸いなことに一宮市の国際交流員の一人となり、夢が叶いました。

国際交流員としての目標は、私の母国であるNZがもっと知られ、愛されるようになることです。NZのいいところを伝えられるよう、頑張りたいと思っています。個人的な目標は日本料理が作れるようになることや、富士山に登ってみることなどいろいろあります。

少しシャイなところもあるのですが、打ち解けやすい性格を持っていると思いますので遠慮なく声をかけてください。



Finkle-Vern Roseanna

ニュージーランドの首都ウェリントン出身。
22歳 162cm 両親・兄・妹二人の6人家族。
音楽、動物、日本の方言、プリクラが好き。
(2014年8月6日から着任)

ライダー・ジャックリンからお別れのメッセージ

3年間、ありがとう!!

Ryder Jackleen

ニュージーランドの南島出身。他市国際交流員とのコラボセミナーや絵本の読み聞かせなど、さまざまな新規事業を立ち上げ、大きな功績を残した。(任期: 2011年8月~2014年8月)

一宮市で過ごした3年間は、私にとって貴重な経験となりました。いつまでも忘れられない日々を過ごしました。一宮市民のみなさんが、ニュージーランド人の私を同じ一人の市民としてあたたかく歓迎してくれたことを、心の底から感謝しています。とくに、国際交流協会のボランティアのみなさん、市役所の職員のみなさん、小中学校の先生、そして生徒のみなさんには本当にお世話になりました。3年間たくさんの人々との交流を通して、多くのことを学び成長できたと思います。

3年連続、びさいまつりでマオリ族の伝統文化を紹介したり、ニュージーランド(NZ)文化理

解セミナー等で市民のみなさんに母国について伝えたことや、自分の母校の小学校と一宮市の小学校の交流活動の企画(絵手紙の交換事業)を始めたほか、今年7月には幼児を対象にした外国絵本の読み聞かせの異文化理解講座を実施しました。このような活動を通じて、一宮市にたくさんの友だちができたと思います。一宮のみなさんと自分との関係だけでなく、母国NZと日本の結びつきが、この先さらに強まることを期待しています。

これからも、私はNZと一宮市の「かけはし」として、一生懸命活躍したいと思います。一宮のみなさん、3年間本当にありがとうございました。NZまで遊びにきてね。待っています!!



iiiaでは外国人のみなさんが日本で安心・安全に暮らせるよう、日本の交通ルールの学習や災害時の対応などを学ぶ講座を開催しています。

ココが違うよ、交通安全！ルールとマナー

尾西自動車学校 9.21

まだまだ日差しが強い日曜日、一宮在住の外国人を対象にした外国人交通安全教室が開かれました。

今回の講習は自転車に乗る時の走行マナーやルールが中心です。講師は一宮警察署の交通課巡査長と、それをサポートするボランティアの方々。



講習内容は教習所内を自転車で走行し、そこで気をつける事や、やってはいけない事を気付いたその場でアドバイスを受けるという体験学習です。

とは言っても、仲間同士で参加しているためか、和気あいあいとした雰囲気伝わって楽しそうに交通マナーとルールを学んでいました。

後半は教室に入って安全講習会です。ここでは自転車シミュレータや反射神経テスト、特殊ゴーグルを使った飲酒運転体験など楽しく学びました。

講義の中で、「日本では二人乗りは法律で禁止されていますが、皆さんの国ではどうですか？」との質問に、「ベトナムでは3人までOKです」との答えが間髪を入れずに返ってきたので、会場は大きな笑いに包まれました。

各々の国によってルールは違うことはありますが、まずは日本のマナーとルールを守って安全運転をして下さい、とのお話で講習会は終了しました。

(you都市)



外国人防災教室…、本番の緊張感が走りました。

青年の家 10.5

外国人防災教室は、最大級の台風が本州へ向かおうとする日に行われました。

昨年から開催しているこの教室では、日頃の防災意識を高めるとともに、災害時にどんな動きをすべきかを体験しながら学びます。



今回は、日本語ひろばの最中に地震が発生する場面から訓練は始まり、机の下に隠れ、火事の発生を想定し別の部屋へ移動します。

そのあとは協会ボランティアのクッキング班による非常食を使ったメニューでの昼食です。応援に駆け付けた一宮警察署、市消防本部の皆さんと交流しながら講習は続きました。

救命講習では、人が倒れているのを見つけた時「大丈夫ですかぁ」「誰か来て下さ〜い」と大きな声で叫ぶ練習を参加者に実際にやらしてもらいました。

照れながら小声を出すと、もっと大きな声で！

と檄（げき）が飛びます。AED（自動体外式除細動器）の扱い方を一通り教えてもらい実際に操作してみます。

その時です、消防署隊員に緊急連絡。近所で火災発生とのこと。説明中の隊員が「4人のうち3人は任務に戻ります」と言い残し、即座に出動されました。

訓練中に本当の火災が発生し、皆は一瞬緊張で固まりましたが、一息ついて再び道具の説明や使い方の体験を続けました。緊急連絡のためか、参加者の顔つきはほんの少し締まって見えました。(you都市)



友好都市イタリア・トレビーズ市からやって来たデザインを学ぶ女子学生お二人と先生の三人、本日は歴史民俗資料館から犬山城、一宮へ戻って妙興寺という盛りだくさんのコースに、景色もよさそうだということで予定外の138タワーにも寄りました。



最初の資料館では羽織の背中に大きく染め抜かれた丸に九陽の紋が、何かの花のデザインに似ていると興味深げでした。隣の旧林家住宅では抹茶をご馳走になり、庭園を観させていただきました。

次の138タワーで地上100mからの景色を堪能したあと、犬山城へ向かい、昼食に名物の味噌田楽をいただきました。

犬山城では急な階段にビックリ!着物や甲冑など、



デザインが気になるようでした。先生は天守閣の外回廊はご遠慮、少し怖かったのかな?

最後に妙興寺へ戻り、知客(し

か)さんの案内で知客寮にてまず抹茶をいただき(学生さんもお手前を披露???)着物(夏は麻衣、冬は木綿衣)や帯というよりも綿入りの黒い木綿太紐の説明。やはりここでも生地やデザインが気になったようです。

そして最後に坐禅堂でお話を伺い、協会職員が実際に警策(きょうさく)で打ってもらったのですが、その音に皆ビックリ!!ハラハラドキドキで締めくくった一日でした。

(雲谷斎)



3人からサプライズプレゼント!!

3人が一宮を発った翌日の9月12日、大きな胡蝶蘭の鉢植えが市役所に届きました。一宮での滞在中、3人がサプライズでこっそり手配してくれていたようです。鉢植えには手紙が添えられ、イタリア語でこう書かれていました。

一宮市民の皆様

私達は一生忘れることのできないような素晴らしい経験をさせていただきました。

このような機会をいただいたことを心より感謝しています。

一宮市を離れることをとても淋しく思っています。



できるだけ多くの市民のみなさんに感謝の気持ちを伝えたいという3人の想いを受け、市役所本庁舎1階のロビーに飾らせていただきました。Grazie!(ありがとう!)

ドキドキわくわく 新鮮体験！ イタリアの旅

総合体育館 8.25

今年の中学生海外派遣は8月3日(日)～8月9日(土)、友好都市トレビーゾ市をはじめとするイタリア共和国を訪問しました。生徒19人、引率者5人の計24人です。

市長のあいさつのあと、団員それぞれが日程の行動紹介、イタリアの衣食住、歴史的遺産、人との出会い等、スライドを交えて報告しました。

とくに現地交流会では、知っている限りの英語と身振り手振りで、何とか意思の疎通を図ったようで、それが新鮮な体験だったようです。

報告会の最後には、イタリア民謡「帰れソレントへ」をイタリア語も交えて団員みんなで歌いました。

生徒代表の木曾川中学3年寺田真哉君に聞きました。「飛行機に乗るのもドキドキでしたが、行って仲間と過ごすうちだんだん楽しくなりました。

食事はチーズのいっぱい入ったピザが格別おいしかったです。また向こうの中学生が本音で話してくるのは驚きでしたが、私は好感が持てました。」

今回の体験がいい形で将来に生かせたらいいですね。(橋本)



現地での交流会の様子

国際理解ワークショップ

世界を知ろう!!

「地球の食卓」の写真を使って

葉栗北小学校 7.4

年間約20校で実施している国際理解ワークショップ。この日は5年生と6年生のクラスで行いました。進行はAIS(あいち国際理解教育ステーション)からの講師(ファシリテーター)で、1クラスを8つのグループに分けました。今回は、5年生の2クラス取材しました。

世界各地で日常食べられている食材を前にした、家族の写真8枚を題材にして、その国の生活、環境、健康について考え意見を出し合いました。

アメリカの写真からは「油や肉が多い食べ物で太りそう」や、ブータン王国やアフリカのマリ共和国では



「野菜ばかりで、しかも唐辛子がいっぱいあるけど食べるのかなー?」、ドイツは「飲物の容器はビンが多く、

再利用できるね」、オーストラリアでは「ペットボトルやビニールの物が多いけど、ゴミが増えそう」等々、色んな意見が出てきました。

自分の目で見て考える、またそれを言葉で説明する事の大切さを知るワークショップでした。

こどもたちの声からは、「写真を見て自分たちでクイズを作ったのが楽しかった」や「知らない事が分かったのが楽しかった」など、ワークショップの主旨は十分伝わったようです。(みかん)



アジア 4 カ国から来日した学生の社会見学とひと時のふれあい

名古屋大学夏季セミナーホームステイ

8.22~24

アジア各国から選抜され、名古屋大学の夏季セミナーに参加した学生23人が、日本の社会インフラ見学として一宮市環境センターを訪問しました。ゴミ処理システムの説明を真剣に聞き、カメラで記録に残していました。

そのうち、ウズベキスタン、カンボジア、モンゴル、ベトナムからの6人が一宮でホームステイ。ホストファミリーとの対面式では流暢な日本語で



自己紹介し、将来は国のために役立ちたいとの夢を語りました。

そのあと、花柳流の日本舞踊によるおもてなし。

初めて見る日本舞踊に感動し、小さな踊り子をビデオに収めていました。お返しにウズベキスタンの2人が母国のダンスを披露し、皆で一緒に踊りました。

花柳流のみなさんがサプライズで着物の着付けをしてくれると、学生たちは大喜び。目が輝いていました。



ホストファミリーのひとり

は「どう過ごすかはまだ決めてません。ゲストと相談して決めます」と言い、学生さんを連れて嬉しそうに帰って行かれました。（佐野）

料理ボランティア養成

魅惑のハワイアンクッキングセミナー

尾西生涯学習センター 6.29

料理ボランティアグループの協力のもと、メンバーの募集と養成を兼ねて“魅惑のハワイアンクッキングセミナー”を開催しました。

“アロハ”（こんにちは）、講師のベンジャミン・モレノさんの元気な声でセミナーがスタート。ハワイ旅行の経験がある方は？との質問に、まだ一度も訪れたことがない人から10回以上の方やフラダンスを学んでいる方々が受講生でした。

最初にハワイの文化や観光のあらましをハワイ語を交えながら写真で紹介。ハワイ語は12文字のアルファベットで、発音はローマ字読みでよく、覚えやすいそうです。自然が豊かで、火山活動中



の火口を真近かで見られたり、波の高さが5~6mもあるサーフィンスポットなど。住みやすくて、人を引き付ける魅力があ

るハワイです、とベンジャミンさん。

料理実習は、「ロミロミサーモンサラダ」、ハワイの定番「ロコモコ」、伝統的デザート「ハウピア」を、ボランティアに教わりながら一緒に作りました。“いただきます”の代わりに皆で“マハロヌイロア”（感謝の意味）と言って、できたてをほおばりました。

食事中ベンジャミンさんは、にこやかにみなさんの各テーブルを周り談笑されました。食後は名曲ブルーハワイを歌ったりと、楽しい南国のひとときでした。



最後に、料理ボランティアリ

ーダーの長南さんが「楽しく料理を学びながら、国際交流を楽しみませんか」と呼びかけ、受講者から新たに6名のボランティアが誕生しました。これからの活躍が楽しみです。（ドリアン）



おとなりさん



仁(じん) キャリムさん

イラン（テヘラン）の大都会に生まれ、6人兄弟で内4人が男。国技はレスリングですが、自分が子供の時はサッカーに夢

中でした。その頃から将来は、海外に行こうと思っていました。

24年前に東京に来て、色んな仕事をしましたが、今の通訳や翻訳の仕事が自分に一番合っていると思います。言葉の通じない人と人の、パイプ役になれるのが嬉しいです。

旅行で知り合った日本人の女性と結婚し、中2と小5の男の子がいます。子供たちを何回かイランへ連れて行きましたが、住むには日本がいいかなと思います。

イランは歴史があり、ペルシャ帝国で栄えた文化がたくさん残っています。ペルシャ絨毯、キャバブ（串焼き肉）、テヘランの北にそびえ立つタマウンド山5,671m（富士山とそっくりな山）などイランの事をもっと知ってもらいたいです。

現在自宅では奥さんが中心になって、ペルシャ絨毯の教室や、自分でもペルシャ料理の教室も開いています。

今ではすっかり日本の生活に慣れましたが、日本に来たばかりの時は、食べ物が一番大きな違いでした。その頃、ラーメンやうどんをよく食べていました。刺身や寿司はダメで、イランでは生の魚を食べる習慣はありませんでした。

今でも生魚は無理で、豆腐や納豆がだいすきです。ペルシャ料理の私のお勧めは、なすとトマトと鶏肉のシチューです。

言葉について少しお話しします。ペルシャ語で、こんにちは、「サラーム」と言って昼でも夜でも使います。また日本語で使われている、ペルシャ語が語源の言葉があります。「バザール」や「パジャマ」がそうです。

最後にわたしが気に入っている、一宮市について話します。東京や一宮以外の愛知県内、岐阜など色々な所に住みましたが、一宮は都会でもなく田舎でもない。そして都会の名古屋にも近くて、そこが好きです。ちょっと古さが残っている所が居心地いいですね。（みかん）

iiia イベント information

お問い合わせ・お申し込みは一宮市国際交流協会(iiia)まで
TEL: 0586-85-7076 FAX: 0586-73-9213
メール: iia-138@iia-138.jp

親子国際理解セミナー

親子でJICAなごや地球ひろばを見学し、途上国の生活や文化、習慣などについて学びます。

日時：平成27年1月18日(日)

会場：JICAなごや地球ひろば ほか
(一宮市内からバスで移動)

国際スポーツ交流会

地域に住む外国人の方々やフレンドシップ国出身の方々と一緒に、初心者でも気軽にできるソフトバレーボールを通じて交流しましょう！

日時：平成27年1月25日(日)

会場：一宮市総合体育館

編集後記

会社人間の自分が定年退職して体力向上と趣味を兼ねてジョギングを始めた。縁あって、ランニングサークルに入会し、新しい友達の輪ができた。ジョギングも1kmから始まり、今はハーフマラソンに出場できるようになった。サークルの友達から一宮市国際交流協会のボランティア活動の紹介を受け、新しい仲間との輪が更に広がった。初めての体験であり、会社関係とは違う新しい友達がどんどん増えていくことは楽しい。(akeharu)

飛び出したから得られたこと

樋野 芳樹



「ん？ガボン共和国？ってどこ？」。青年海外協力隊の合格通知の封を切り、自分がこれから赴任する国を見て「ポカン」としたのはもう3年も前のこと。

2012年6月から2014年6月まで、村落開発普及員という職種でガボンに赴任しました。主な任務は稲作普及。石油や木材といった豊富な自然資源に恵まれたガボンは、アフリカの中では比較のお金持ちの国と位置づけられており、食糧の多くを輸入に頼っているという現状です。しかし、石油の枯渇が予測され、これまでのような輸入一辺倒の状況を改善する必要に迫られているという背景があるため、稲作の普及が求められています。とは言うものの、ガボンでは稲作は一般的ではなく、大人も子供も稲の成長過程を見たことがほとんどありません。そんな状況からのスタートでしたが、「将来のガボンを担う子どもたちへのアプローチが重要なのでは」との信念で小学校に焦点を当て、「学校での栽培」・「稲作に関する授業の実施」・「教員向けの稲作講習会の実施」・「稲作マニュアル作成」などの活動を行いました。学校の教育課程に稲作を組み込



むことを長期的な目標に据え、学校主体で稲作が行われる素地作りに力を注ぎました。慣れない環境で初めての試みを行うことは、時に非常に困難でしたが、「ゼロから作り上げる」経験は多くのことを学ばせてくれました。

さらに、収穫に興奮する子どもたちの顔、教えた知識を実践に移してその成果を見せに来てくれる子どもたちの表情は、活動を進める上でのこれ以上ない力となりました。

2年間という長期に渡って異国の地で暮らすということは、「想像を絶する大変さの連続でしょう」と言われることがありますが、そんなことはありません。もちろん奇異な目で見られることやマイノリティな存在故にからかわれることもありましたが、基本的にはみな優しく、日本にいる時以上に人との繋がりを強く感じることもありました。生活面では赴任直後こそ不便さを感じましたが、慣れてしまえば大丈夫です。むしろ「物が無い環境でどうするか」という創意工夫の経験はとてもワクワクするものでした。ただ一つ大変だったことは車での長距離移動。未舗装の道も多く、たとえ舗装されていてもジャングルを縫う道はカーブの連続です。丸一日、体が前後左右に振られ続けての移動を強いられることもよくありました。そこで重要になってくることは「隣に誰が座るか」ということです。大人の男性はNG。しっかりした骨格なので肩や腰の骨でグリグリ圧迫されます。そんな日は目的地に着く頃には体のあちこちが痛んで疲労困憊。でも両隣がおばちゃんだと最高ですね。ガボン人のおばちゃんはそのごくふくよかな体型をしている方が多いので、どんな急カーブでもおばちゃんの脂肪がすべてのGを吸収してくれてストレスゼロ。多少の窮屈さを我慢すれば長距離移動も健やかな睡眠時間と化します。

そんな懐かしい任務を無事にやり遂げ、すでに3ヶ月が経ちました。今後は、これまでの経験を活かして、さらに深く国際開発に携わっていくことを目標に、専門性や語学の向上に努めながら日々努力を重ねていこうと思っています。



*樋野さんの現地からの活動報告「ガボン便り」は、iiaホームページから読むことができます。

発行 2014年11月 編集 一宮市国際交流協会 〒491-8501 一宮市本町2-5-6 TEL0586-85-7076

この「かけはし」は、協会ボランティアにより取材、編集されています。
協会に関する情報は、ホームページをご覧ください。【HPアドレス <http://www.iia-138.jp/>】
ご意見・ご感想などお待ちしております。【メール iia-138@iia-138.jp】
Facebookページもご覧ください。【Fb <https://www.facebook.com/iia138>】